



The Y's MEN's CLUB of

もりおか



<VOL138.2019.6>

もりおかクラブ事務所：〒020-0804 盛岡市本町通3丁目1-1 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内  
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

「主題」

国際会長	Moon Sang Bong (韓国)
アジア太平洋地域会長	田中 博之 (日本)
東日本区理事	宮内 友弥 (武蔵野多摩)
北東部長	涌澤 博 (仙台青葉城)
もりおかクラブ会長	三田 庸平

「私達は変えられる」

「アクション」  
「為せば、成る」  
「チャンス到来、我ら北東部から世界へ」  
「繋がりを大事に、見据える世界の扉」  
副題「ワイズの明るい未来を見つけましょう！」

今月の聖句 イザヤ書61章11節

 「主なる神はすべての民の前で恵みと栄誉を芽生えさせてくださる。」

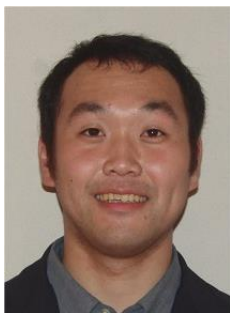
会長	三田 庸平
副会長	長岡 正彦
書記	濱塚 有史
会計	大関 靖二
担当主事	浅沼 慧 (しどう)
	中村 渉 (チャン)

7月定例会のご案内

日時 令和元年7月13日 (第2土曜日) 18時30分  
場所 盛岡北ホテル 会費 2,000円

第二例会、7月19日(第3金曜日)  
アジア大会開催のため、無し

三田会長巻頭挨拶



三田会長

盛岡の気温はすごく暑かったり、寒かったりと温度差が激しくて体調管理が難しいと思うようになりました。夏らしくないような気がします。8月の祭りに向けてさんさ踊りの練習が始まり、毎晩のように太鼓が響いています。

さて、1期目の会長職を終えようとしています。あっという間の1年でした。盛岡のメンバーにも北東部の多くの皆さんにお世話になりました。感謝いたします。最初はあたふたしていました。どうなるか不安でした。何とか1年をやれました。来期も会長として精一杯頑張りたいと思っております。この1年会員増強に関して成果を上げられなかったのが心残りではありますが。次期は1人2人でも着実に増やせたらと思っております。SNSというツールも使えるように盛岡でも話し合い、効率よく行えたらと思っております。もりおかクラブはこれからも元気で楽しいクラブに出来たらと思っております。

6月定例会の報告

令和元年6月8日(土) 盛岡、北ホテルにて開催、参加者、三田会長、井上、大関、井上優子、長岡、魚住、濱塚、浅沼、(敬称略)。ゲスト、渡邊拓人さん(しなちくりーダー)、以上9名の参加で開催されました。

今月はごちんまりとした例会でしたが、話題の中心は東日本区大会でした。今年度は井上優子メネットがメネット委員長という事でクラブをあげて応援してきましたが、仕上げの大会のメネットアワーで最後の協力をしました。講演会の録音起こしを最後の協力として行う事を約束しました。大会の報告は、三田会長と大関メンにかいてもらうことをお願いできました。大会報告はこの後特集しております。お楽しみに。



年度末、6月定例会集合写真

## 第22回東日本区大会に参加！

### 大関メン、三田会長合同報告

6月1日、2日(土日)の2日間にわたり、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。もりおかクラブからは三田会長、井上メン、長岡メン、井上メネット、(今期のメネット委員長)、大関メンの5名が参加してきました。

6月1日深夜12時30分、車にて出発。8時目的地に到着。三田会長は10時より年次代議委員会に出席、残りの4名はメネット



アワーに参加しました。井上メネット委員長の挨拶に始まり、1年間の活動報告、会計報告等々、井上委員長の素晴らしいリーダーシップの基スムーズに進行しました。

講話に、大村知子先生(静岡大学名誉教授)による「ニーズは多様、バリアフリー」と題してお話をいただき、バリアーはあそこにも、ここにも有り一つ一つ解決していく事が楽しい世の中になるとの事。大変参考になるお話をいただきました。

12時30分、いよいよ大会の開幕です。恒例のバナーセレモニーが有り、北東部の新しいバナーがお披露目されました。



三田会長入場。

三田会長は初めてのバナーセレモニーです。「やや緊張していましたが、ステージ脇の待機場所で色々な方と笑い話をしながら待てたので緊張が解けた気がします。」と三田会長。

バナーの大きさがいろいろで、統一の基準がどうなっているのか疑問でした、小さな物から、大きいのは2人でも持てないものも有り、不揃いが気になりました。

今年は女性の会長が例年より多く感じられました。いい傾向ではないでしょうか。開会宣言、開会祈禱、来賓の挨拶、メモリアルアワーと続きました。メモリアルアワーでは、この1年間に12名の方が逝去されたとのこと。平均年齢は85歳でした。少し早い気がしますがいかがでしょうか。健康には十分注意しましょう。

14時10分より東日本区アワー1のスタートです。理事年次報告では会員数860名で発足当時の1200名に近づけたとのことでした。

年次代議員報告では次々期理事に宇都宮クラブの大久保さんが、又次々期の東日本区大会は甲府21との事。もりおかクラブの大会時の理事が甲府21の駒田さんだったことが思い出されます。大変お世話になりました。

奈良傳賞には宇都宮クラブの十河さんが受賞されました。近年体調が思わしくなく代理の方が出席しましたが大変名誉な事

で、北東部の誇りですね。

15時45分からは記念公演、森重雄氏の「もうひとつのヒロシマ、灯籠流し」で映画のお話がありました。内容は広島で捕虜になっていたアメリカ人12名が原爆で亡くなった。この人たちがどういう経過を経て亡くなったかを、わずかな資料と記録に基づいて、異国で亡くなった外国人の真実を伝えた映画と講演でした。アメリカの遺族の方には大変感謝された様子が映画から観ることができました。涙無くしては見られませんでした。原爆症は後遺症が残る。被曝して何年か経つと突然症状が現れ亡くなるとの事、世界から核を廃絶したいですね。

18時30分からはお楽しみの晩餐会です。晩餐会ではお弁当が用意されており、美味しく頂きました。そして、色々な方と交流して楽しく過ごすことができました。フェローシップでは、お酒を飲みながら晩餐会では話せなかった方ともたくさん話せて、充実した時間だったと思います。

6月2日最終日です。早朝ウォークから始まりました。8名の参加でした。明治神宮内を散策しました。爽やかな風の吹く中気持ちよく散策しました。朝食は、バイキングでした。とても美味しく頂きました。

9時15分より東日本区アワーIIです。石巻クラブの清水メンより震災の現状報告があり、引き続きこれからも援助をお願いしたいとのお話がありました。事業主査の報告があり、事業表彰も引き続き行われました。ここでも司会者より時間が無いから早くとのコメントがあつたが、表彰者に失礼ですし、このコメントは



なんとか撮影、とてもいい発表でした。

できる限り控えてほしかった。メネット委員会からは、井上メネット委員長から1年間の報告がありましたが歯切れが良く、たいへん聞きやすかった。但し、報告台が高すぎ顔が見えなかった、踏み台が欲しかった。

11時より理事引継ぎ式、次期理事紹介、新理事の宣言及び所信表明が行われました。

12時30分に会場を後にして一路盛岡に帰りました。毎度のことながら車を運転してくれた長岡メン、三田会長に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



ネットアワー集合写真、井上優子委員長ご苦労さまでした  
今年の大会は、メットアワーが8割を締めました。

# 「ズリテン盛岡DAON」

## もりおかクラブの状況報告

6月の出席率	8/14	57 %	ゲスト1名	ビジター 1名	メネット 1名		
メーキャップ	1	名		6月切手	15	g	累計 363 g
6月のにこにこ	7,000	円	累計	円	6月プルタブ	0	g 累計 22,350 g
6月 石鹸	0	円	累計	3,610 円	りんご	0	円 累計 17,010 円
6月 献金	0	円		ファンド合計	17,010	円	

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

6月のハッピーバースディ 古澤 久美メネット 6/7 千葉メン 6/26 千葉 真由美メネット 6/28  
村上ウイメン 6/7 浅沼慧メン 6/26 誕生日おめでとうございます。

## ワイズメンズクラブ東日本区大会 メネットアワー記念講話

### 「ニーズは多様!!、バリアフリー

～バリアがあそこに、ここに、貴女にも～」

ワイズメネット委員 大村 知子

(静岡大学名誉教授 学術博士)



大村 知子講師

ご紹介頂きました大村です。私が今まで経験してきた事例を入れてお話をさせていただきます。私がバリアフリーの研究した経緯がありまして、もともと衣服のサイズに関する基礎研究をしていました。JIS規格の11号、9号を決める体型研究を大学院でしておりました。40歳で短大教員から静岡大

学へ赴任しました。阪神淡路大震災での衣生活の実態調査を3年間毎月神戸に通って行いましたが、その中でバリアがいっぱいありました。おしゃれな神戸の方々スニーカーを履いて、リュックを背負って、手提げバッグを持って暮らしていました、バリアっていき暮らし方を変えるほどすごいのですね。大学院を出たばかりの教え子が交通事故で失明してしまいました。その後視覚障害の方が自立する道を探りましたが、「あなたのような高学歴の方を支援するところはありません」と言われて、それならば私が研究室で支援できることは支援しようとした経緯もあります。私は18年間姑を自宅介護しましたし、副学長時代、附属幼稚園長の時、バリアっていろいろだな、バリアフリーにしなければならないことがいっぱいあるな、と感じました。最近はユニバーサルデザインという言葉がいっぱい、簡単に出てきていますが、皆さん衣服を考えてみてください、ユニバーサルデザインの服ってあるでしょうか。フリーサイズの服は誰でも着られるけどベストフィットではありません。着られる、入るかもしれない、だけど似合わないかもしれない。ユニバーサルデザインは今のところ完璧ではありません。どうしたらいいでしょう、一つ一つのバリアをクリアしていくことです。ワイズの国際大会が控えています、国際的にもいっぱいバリアが控えています。仙台は大丈夫でしょうか。トイレの表示にしても大丈夫でしょうか。ガーナでは男子トイ

レは「おヒゲのおじさま」、女子トイレは何もなかったので判りました。でも、奈良の有名なホテルでは、女性の着物、男性の着物姿でした。日本人は分かります。外国人はわからないでしょう。またモンゴルのゲルに泊まった時は、ネクタイのマーク、ハイヒールのマークでした。大草原の子どもたちは見たことも聞いたこと無いのに。これはソフトウェアのバリアですね。私の子どもが小さかった時に、韓国の清州クラブのIBCに行きました。韓国の民族衣装で男女の表示をしていましたので、娘は区別が出来ず誰かが入るのを待ってからトイレを済まして来ました。



トイレマークの総集編のようです。左女性、右男性

行政はバリアフリーというときにすぐに車椅子や障害者の事を言いますが健全者にもバリアはいっぱいあります。今日、皆さんはここに来るまでバリア体験はあったでしょうか。歩道橋を渡るのが大変だとか、ここまで来て具体的な場所がわからないだとか、いろいろあったと思います。これらは一人一人違うのです、子どもの体験、日本人の体験、外国でもいろんな国の方々の体験があります。今日の体験を思い出しながらお話を聞いていただければいいと思います。バリアにはいつでも誰でも遭遇します。バリアフリーはどんな人でも身心に不都合が無くて暮らせる事です。駅のホームで視覚障害者用のブロックがあるとキャスター付きのトランクを引いてきた人はとても邪魔になります。ハイヒールを履いていると捻挫の危険など、バリアは人によって違います。だから解決には難しさがあります。地域社会のバリアは、道路の問題、建物の問題、乗り物の問題、乗り物への乗り降りする場所の問題、公共施設のトイレの問題、階段の広さの問題、フロアで通れないほどの机が並べられていたなど、すべてバリアです。どうするかは私達が考えることです。静岡大学時代にどんな人でも入学させなさいというお達しで、車椅子の学生を入学させました。静岡大学は山一面がキャンパスです。そんな中で車椅子

の学生を受け入れて、坂道の移動も大変ですが、建物一つ一つをどのように改装するか。初年度2億円をかけて車椅子用にエレベーターのボタンを整備、トイレを改修、ドアをスライドに替えるなど、それでも2億円ではとても足りませんでした。エレベーターが設置できない建物の場合インターフォンで健常者の方が動くなど。最終的に3億円かけたのですが、バリアフリーにはなりませんでした。

全盲の女性がトイレにいくとき付き添いで付いていった男性は入れない、水を流そうとボタンを押したら非常ベルが鳴ったとか、駅のトイレは点字ではどこにあるのか分からない。そのような事例を研究結果で発表したところ、音声案内を導入した駅が出てきました。信号も変わり目を案内するとか変わってきましたが、近所の方がうるさいとクレームを言ったりします。立場が違えばそれがバリアになります。ユニバーサルデザインということで、静岡県の第一回ユニバーサルデザイン研究委託を受け視覚障害の諸実験をして報告もしました。

附属幼稚園長の時、子どもたちが水を出しっぱなしにして困ると先生方が訴えてきました。これは発達段階の問題で締めるとするのは3歳児では大変なのです。回すのではなく横にずらす栓に替えました。4歳児は上下方式の栓に、5歳児はひねる訓練をするための栓にと、発達段階によってバリアを改善していきました。発達によって改善していく、加齢によって改善していく、障害によって改善していく、バリアも様々です。また宗教によって、人種によって、地域によっても北海道と沖縄ではハードの面でも違いがいっぱいあります。

ソフトの面では皆さん見逃しています。東京の地下鉄案内図の色別の区別がわかりにくいですね。色覚に異常がある方は「ピンクのラインの電車で後楽園に行こう」といってもだめな子がいますね。教科書のページの色を識別できない子がいます。ある出版社ではページの上に色別のマークを入れました、これで色がわからなくてもページの意味が分かります。右利きと左利きの指導で先生は困っています。左利きの人は前から見なさい、右利きの人は先生の後ろから見なさいと言っているものですから、家庭科の教科書を右利きと左利きの絵とを見開きにして絵の上に手を置いて、そのままで包丁の使い方や手縫いのしかたがわかるようにしました、これもバリアフリー化なのです。

今度の仙台の大会では言葉の問題があるでしょう、言語、方言などです。モスクワに旅行したとき、駅の案内に英語は全くありませんでしたので、ロシア語がわからなくて困りました。

衣服のお話です、研究で着用実験をしました。手が肩まで上がらない人は、前あきが良いのですが、高齢者は腕が後ろまでまわりませんから、柔らかい布ですと着るのが大変です。腕が上がる人はかぶったほうが速いです。介護の世界では病人には前開きのシャツを着せなさいと言っていますがマジックテープで止めるシャツはだめです。はだけた時にテープが肌にあたって嫌だと言います。介護する人にはバリアフリーですが、介護される側は嫌なのです。履物では高齢者は前がちょっと上がっている物がいいです、突っ掛かりません。歩きはじめの子どももつま先が前上がり靴がいいかという、頭が大きいので(からだのとのバランスで)転んでしまいます。歩きが不便なのは高齢者も

子どもも同じですが不便の原因が違うのです。バリアは衣食住全部にあります。

小学生はランドセルですが1年生と6年生では体格が違いますのでデータを提供し、バリアに対応するために成長につれてハーネスをとり変えられるランドセルの開発につなげました。中学生の肩掛けカバンが成長期の体にどのように影響するのか実験しました。暮らしの手帳で特集記事を掲載してくれました。その後中学生も背負う形式に全国的に変わりました。

健常者も何かしらバリアに当たっています。障害者はもちろんそうです。ある日怪我をするかも、病気になるかもしれません。妊娠もします。私は関係ないということはまずありません。性差の問題、小学校のトイレで男子用の小用トイレしかなく個室がない場合などそれが嫌で登校拒否になるとか、親にもわからないのです。保健室のそばの個室トイレを見つけてから学校に行けるようになったという事例がありました。

完璧なユニバーサルデザインはほとんどあり得ません。人種、宗教、住居の場所、環境でバリアが変わってきます。ユニバーサルデザインは全員が対象になります。グローバル化が進んでいますので、自分たちだけの問題解決ではなくて広く考えて対策を考えなければ、さっきお話したように3億円かけても問題解決はしません。30年前に洋間と和室の段差が無いように家をバリアフリー改修しました。大工さんは不満でしたがフラットにしてもらいました。現在では当たり前ですが。

でもバリアが必要なケースもあります。最近、孫が活発に動くようになり、あちこちにバリアを作らないと大変なことになります。交通事故対策では車道と歩道には丈夫なバリアを作らなくては いけません。学校に侵入した人間が悪さをします。学校内になかなか入り難くなっています。子供の安全のためには必要なバリアでしょう。オリンピックや国際会議でもバリアは必要です。バリアフリーが全部いいものだと私は言っていないのです。

誰でもバリアに遭遇する可能性があります。高齢者になると夕方赤い色が見えにくくなることをご存知ですか。赤は明度が黄色に比べて低いですから黄昏時はよく見えません。バリアフリーは多角的に考えないとできません。

課題としてはバリアを共有すること、バリアを感じたら声を上げ、黙って我慢しないで声を上げてください。解決のためにアイデアを出す、正しい情報を得る、創意工夫をしていく、公的立場の人は人々の暮らしに思いをよせて(イメージして)バリアをフリーにしていく事が大切だと思っています。

皆さん、グローバルな視点を持ちましょう、多様性を認めましょう。私たちワイズメネットも積極的に活動을続け、暮らしやすい社会を築いていきましょう！

感想です。

長岡の長男は4歳まで言葉が出ない発達障害を持っていました。3歳まではとてつもない多動で、一瞬たりとも目を離せない子供でした。階段の入り口や、庭には道路に出ないようにバリアを立てていた事を思い出しました。バリアフリーのお話からそれがすべて良いものだと思わないとのお話に共感いたしました。

## 南部片富士印、大豆「秘伝」。苗の植え付け作業



加藤 淳 さん

昨年11月の例会で卓話をお願いした加藤 淳 さんの畑にお邪魔して、大豆の苗の植え付け作業を体験してきました。

梅雨晴れの6月23日、岩手山の麓、柳沢地区に集結したメンバーは、主の加藤さんを入れて11名。ワイズからは濱塚メンと長岡メン、リーダーが5名、スタッフのタモリ、チャン。OGのしろくま。しろくまは3月にYMCAを退職以来の再開。

まずは、苗床で育っていた豆の苗を掘り起こし、一本ずつの苗を確保して行きます。大型のシャベルで深く、根を切らないように掘り起こします。苗の根が絡まっているのでここは丁寧にほいで行きます。ふかふかの土の中にはコガネムシの幼虫や、ミミズがいっぱいいます。虫嫌いのビリケンが大騒ぎを始めています。「ビリケンほらよ」と最初は本当に虫を投げつけていましたが、反応が面白くて、かれた木の枝や葉っぱ、虫では無いものを投げつけて遊びだしました。濱塚さんです。ひとしきり遊んだ後、定植開始です。苗の間隔は40Cm、畝の間隔は80Cm。張ったロープには目印がついています植栽スコップで20Cmの穴を掘り、苗を一本ずつ植えて、土をかぶせて終了。次だよ。なんと、2時間足らずで、定植終了です。しかし、農作業を体験したことのない面々は、しゃがみと立ち上がりの連続で足腰が悲鳴を上げています。「スクワットを連続でしているようだ。」「そんな姿勢では

腰が曲がるよ、ちゃんとしゃがんで」「虫は無視して」とか。わいわいがやがや、なんと楽しい事か。汗もいっぱいでした。夏至の翌日です。日差しは容赦ありませんでした。加藤さんが用意してくれた、飲み物とおやつをいただいて生き返りました。これは「こんびり」と言うんだよ。「小屋」(こびる)を盛岡ではこう言います。おやつタイムですね。真夏の太陽の元、いい汗をかきました。



へっへ、楽勝だぜ！



うまく植えられた？



加藤さんをいじって遊ぶビリケン、と仲間たち

## 東日本大震災アーカイブス、2011年11月掲載 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター報告会 「被災地の今、そしてこれから。」

11月19日、アイーナで宮古ボランティアセンター所長、池田勝一さん、日本YMC同盟東山荘営業主任、佐久間真人さんの講演会が開催されました。ご報告いたします。



佐久間真人さん

みなさま今晚は、YMC同盟東山荘の佐久間と申します。神戸のYMC出身です。阪神淡路大震災を神戸で経験しました。長田のYMCAの建物は無事でした、私ともう一人の2名で震災復興担当として1年半ボランティアコーディネーターとして働きました。その経験を生かして今回宮古で活動を始めました。

3月に宮古ボランティアセンターの設立を行いました。瓦礫はほとんど手つかず残っていました。津波の被害の境界線ではこちらは無傷、隣は壊滅という現状です。海岸線400Kmに渡り壊滅したのですが、阪神よりも面積が広大です。阪神では被害を目の当たりにして、燃え続ける街をただ見つめている方々が印象に残っています。あれよりひどい状況はないと思っていましたが、今回の東日本大震災はもっとひどい状況でした。

ボランティアが家を片づけるのは残った家ですが、家がなくなった方はどんどん次のステップに移行しておりました。避難所に

入る、仮設住宅に入る、復興住宅に入る、どんどん次のステップに進みます。家が残った方は、家内の財産をごみとして処理しなければなりません、すべて家の外に出さなければなりません。それは老人の家庭ではできるはずもありません。その後、畳を出して、床板をはずすのですが、畳と床板の間にはヘドロがぎざり詰まっています。床板のヘドロをそぎ落としからの作業になります。そして床下のヘドロの除去作業に入ります。石灰を撒いてから新しい床板を張る、という作業を続けてきました。ヘドロのにおいはひどい物です、海からこんな物が押し寄せるなんて。私たちは、家財道具を処理してきましたが、それを決してごみとは言わないように心懸けてきました。

復興の第一歩は道を切り開く事からです、自衛隊が突入して道路の片づけは始まりました。しかし、瓦礫の中にはご遺体が有り、すべて手作業で決して重機は使用しませんでした。また、幹線道路の上に移動してしまった家を持ち主の了解を得て解体した時、持ち主は自分の家が解体されるのを見ていたという事



です。気持ちを押し量ると胸が詰まりました。

あるお宅では、孫の写真を探して下さいとお願いされ、家財道具を片づけながら丁寧に探しました。見つかった時の笑顔が嬉しかったですね。別のお宅では、2階の荷物出しをお願いさ

れませんが、柱が損傷しているため立ち入り禁止になります。そんな方の依頼をお断りするの私の仕事でした。釣り具店の片づけの時の話です、有名な釣り具店でした。有名な方の色紙がたくさん有ったそうです。作業が終わり、ご主人に色紙を書いて下さいと頼まれましたが、書く文言に大変苦労しました。「頑張つて」なんて書けません。せいぜい「僕も釣りはじめようかな。」くらいのものでした。ある日一人の女性がにこにこしてやってきました、「母が見つかりました。」嬉しそうにお話しをするのですが、4月3日にお母さんが見つかったという事は、ご遺体が見つかったという事です。近所の方達には嬉しいなんて言えない、教会でしか話せないんですといって、母親との再会を話してくれました。

あんこ屋さんの片づけの話です、難を逃れた在庫の小豆を運んでほしいとの依頼です。20tくらいありました、岩手大学のアメリカンフットボール部の出番でした。パワーは申し分ありません、どんどん運び出してくれました。ご主人は、手出しができない状

況で落ち込んでいましたが、大学生の活躍に元気が戻りとても嬉しそうでした。

宮古にはYMCAがなかったものですから、当初「YMCA」ですと言っても「パテレンですか？」なんて言われました。でも岩手大学のTシャツを着て行くと「岩大ですか」と大歓迎です。今ではYMCAも認識されて地域に受け入れてもらっています。ボランティアの作業を請け負うのは、いきなり行っても断られます。当たり前ですよ、人間関係ができていない方にボランティアを押しつけても受け入れてもらえるわけがありません。まずは人間関係を構築する事から始めました。こんな事で私たちは活動を続けています。

神戸の復興は8割で止まりました。こちらは多分復興しても5割くらいまでしか戻らないかもしれません。長く時間がかかりません。でも、もうこれからは悲愴感はいりません。気軽に訪ねて下さい。これからも災害はどこかで起きるでしょう、今回の経験をこれからの事に生かしていきましょう。

編集後記

現在6月29日午後1時、ついに盛岡探索は断念しました。昔のお店を見つけています、取材しようと思っていました。店のご主人のおばあさんが毎日鉢植えの花を手入れしています。店の中は、私が子供の頃に通っていたお店そのままです。天気が回復したら行こうと思っていたのですが、小雨が降っていて鉢植えの花がでていません。来月に回します。ごめんなさい。

年度末のプリテンは恒例の東日本区大会の特集です。メネットアワーでのバリアフリーのお話は、目から鱗が落ちたようでした。あんなに深くバリアの事を考えている方がいるなんて思いもありませんでした。点字ブロックは、ハイヒールの天敵だとは思いませんでした。思いもよらない事だらけで健康な体に感謝して生きて行こうと思いました。体が元気なうちにリタイヤして別の世界で働こうとした事は正解だったような気がします。

6月の写真館(もりおか探索記事の空白部分です。)



初お披露目北東部パナー



北東部揃い踏み



メネット委員長次期と今期



うん、いけるな。うまい酒だ



おい〜、おかわりだ三田くん



作業前の注意の説明、ほとんど聞いていない、ビリケン聞けよ!



どこからともなく増えた紫陽花



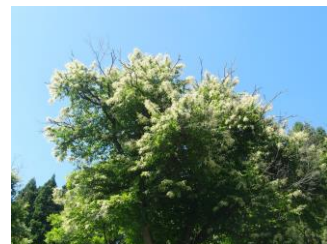
3色タチアオイ



アップ



赤の群落



栗の花、香りが独特